

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	モチベーション・マネジメント		
必修選択	選択	(学則表記)	モチベーション・マネジメント		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	1	15
使用教材	モチベーション・マネジメントエントリーコース ワークブック公認モチベーション・マネジャー資格 エントリーコース		出版社	一般社団法人 モチベーション・マネジメント協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	学校や社会でおこる「不都合な現実」の乗り越え方を学ぶ。		
到達目標	「公認モチベーション・マネジャー資格 エントリーコース」取得。		
評価基準	提出物：70% テスト：30%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	公認モチベーション・マネジャー資格 エントリーコース		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目はオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。		
担当教員	小山 公彦	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	モチベーションを学ぶとは？	モチベーション・マネジメントの趣旨理解(モチベーションシオンタイプ)
2	職場や実習先の人と仲間になろう	「職場や実習先の人と仲間になる」ためのポイント(ジョハリの窓①)
3	就活や実習をうまく進めるためには？	「就活がうまく進む気がしない」時の乗り越え方(自己効力感)
4	キャリアを積んでいこう	「応募したい求人が見つからない」時の乗り越え方(ブランドハップンスタンス)
5	資格を取得しよう	「資格勉強のやる気が落ちた」時の乗り越え方(目標設定理論①)
6	働く先にあるものとは？	「働く意味がみえなくなった」時の乗り越え方(欲求階層説)
7	理論を知る意味（復習）	モチベーション理論、モチベーション・マネジメントの前半で学んだことの振り返り
8	就職活動を成功させるためには？	「思い通りにならない就職活動」の乗り越え方(選択理論)

9	価値観のズレを乗り越えよう	「価値観の違い」を感じた時の乗り越え方(フィット理論)
10	先輩と良い関係を築くためには？	「先輩とうまくいかない」時の乗り越え方(ジョハリの窓②)
11	上達しないときのポイントとは？	「やっていることが上達できない」時の乗り越え方(高原/プラトー現象)
12	思い通りにならない状況を乗り越えよう	「思い通りにならないことと直面した」時の乗り越え方(タイムスイッチ)
13	未来デザインプログラムⅡの振り返り &テスト	モチベーション理論、モチベーション・マネジメントで学んだことの復習（知識確認）
14	やる気を高めるためには？	「授業に身が入らない」時の乗り越え方(目標設定理論②)
15	総まとめ	全体のまとめ&ハンドブックについての説明

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	からだの仕組みⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	からだの仕組みⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	基礎から学ぶスポーツ栄養学		出版社	ベースボール・マガジン社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どもだけでなく大人の指導もでき、自らの日常生活でも活かせるような基礎知識を身に付ける。		
到達目標	栄養摂取と身体の影響を理解する。 一般的な応急処置が出来る・病気や怪我を知る。 運動実施における心の変化を理解する。		
評価基準	テスト/レポート60％ 授業態度20％ 提出物20％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	なし		
関連科目	からだの仕組みⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	小山 公彦	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の説明、栄養の重要性
2	水分補給	水の働き、水分補給の仕方
3	朝食/昼食	朝食の重要性、理想的なメニュー選択 昼食の重要性、理想的なメニュー選択
4	夕食	夕食の重要性、理想的なメニュー選択 自分の食事の分析
5	栄養補助食品	サプリメントの摂取
6	減量	体脂肪のKcal、BMI、運動消費カロリーの計算

7	栄養障害①	骨密度低下
8	栄養障害②	鉄欠乏性貧血
9	総まとめ	栄養学のまとめ
10	心肺蘇生法①	一次救命処置の手順、AEDの使用方法・手順・注意点
11	心肺蘇生法②	一次救命処置の手順、AEDの使用方法・手順・注意点
12	熱中症①	熱中症の分類、症状、処置方法
13	熱中症②	熱中症の分類、症状、処置方法
14	RICE処置	RICEのそれぞれの意味、方法、注意点
15	創傷と出血	出血の注意点、止血方法、湿潤療法
16	骨	骨の働き・構造
17	筋肉	主要な筋肉名、筋の種類、筋肉の構造
18	関節	関節の形態と仕組み
19	骨・関節・筋肉の損傷①	下肢の傷害（足部～大腿部）
20	骨・関節・筋肉の損傷②	体幹、上肢の傷害（腰部～手）
21	生活習慣病①	糖尿病と心血管疾患、脂質異常症と心血管疾患の関係
22	生活習慣病②	高血圧と心血管疾患の関係、メタボリックシンドローム
23	内科的な急性障害	過換気症候群、運動誘発性喘息、運動誘発性アナフィラキシー
24	総まとめ	救急処置のまとめ
25	運動実践による心理的効果	運動と心の関係、心理的効果を高める方法
26	運動実践に関わる要因	社会的、心理的、環境的要因
27	運動の採択、継続、停止	TTM
28	多くの参加者を得る為の留意点 指導受講のミスマッチ	ソーシャルマーケティングとセグメント、ミスマッチの種類、解決方法
29	個別指導におけるカウンセリング	動機付け面接の方法

30	総まとめ	スポーツ心理学のまとめ
----	------	-------------

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	からだづくり運動Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	からだづくり運動Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	2	60
使用教材	「子どものからだを操作する力をはぐくもう」 ～こども運動指導者検定2級ガイドブック～		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児期に運動能力のベースをつくり、子どもの特性に合わせた指導プログラムの立案・指導方法、実技を身につける。		
到達目標	幼児期に適切な運動能力の基盤づくりができる方法を述べることができる。 乳幼児の発達特性に合わせた運動プログラムの立案をすることができる。 子ども達の見本となる運動実技・指導方法を身につけることができる。		
評価基準	演習：40％　提出物：40％　実技：20％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	こども運動指導者検定2級（幼児） / こども運動指導者検定1級（児童）		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	野田 早百合	実務経験	○
実務内容	スポーツクラブの体育教室インストラクター（1年） レクリエーションインストラクター・コーディネーターとしてイベント等従事		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について、現代の幼児期の運動のあり方と課題を知る
2	実技編 マット運動	マット運動の基本の動き『前転・開脚前転・後転・開脚後転』を実践できる
3	指導編 マット運動	前転・後転の基本的な指導法と補助法を身に着け指導してみる
4	実技編 跳び箱運動	跳び箱の基本『開脚跳び』の動きを実践できる
5	指導編 跳び箱運動	跳び箱運動の段階指導を学びながら補助法を身に着け指導してみる
6	乳幼児期の運動の必要性	幼児期における運動のあり方と課題を知る
7	こどもの発育・発達と基本運動	発育発達を理解して、個々の発達に合わせ適切にアプローチすることができる

8	移動運動から体を操作する能力を育てる	足の裏・手のひらから体を操作する能力を育てることを知り「寝返り＝転がる」から始まる移動運動の重要性を理解する
9	考案編 動きのテーマを決めて系統的に発展	器具の特性を理解して「転がる」・「走る」をテーマに空間・環境設定してしてみる
10	実践編 動きのテーマを決めて系統的に発展	器具の特性を理解して「転がる」・「走る」をテーマに様々な空間・環境設定して実践できる
11	考案編 両足跳びの動きの発展	基本運動の「両足跳び」を様々な空間で経験できる環境づくりを理解する（系統的）
12	実践編 両足跳びの動きの発展	体を動かしながらことばの機能を育て、基本運動の「両足跳び」を様々な空間で経験できる環境づくりをしたものを実践できる
13	実技完成編 跳び箱運動・マット運動	子ども達の見本となるよう綺麗な動きを習得する（動きの自己分析）
14	実技テスト 跳び箱運動・マット運動	前回自己分析をした箇所を意識して実技テストを実施する
15	前期まとめ	後期に指定された検定認定試験に向けて前期授業の振り返りをし知識を定着させる
16	検定試験対策	回数15から30の期間で「こども運動指導者検定2級」の認定試験が実施されます。（各校指定試験日確認）。認定試験（学科、実技）前期授業内容から出題する
17	縄跳び運動	縄跳び運動の跳び方の種類を知り、様々な跳び方を習得する（各自縄跳びを持参）
18	縄跳び～前まわし跳びの運動遊び	指導形態を理解して、ルールのある前回し跳び運動遊びを考案する
19	考案編 テーマを決めて系統的指導	スポーツの基本の動きを理解して様々な環境・空間づくりをして運動能力を高める方法を学ぶ
20	実践編 テーマを決めて系統的指導	考案した系統的指導を共有する
21	実技編 鉄棒	鉄棒運動の基本『足抜きまわり・尻上がり』『前回りおり』『逆上がり』の動きを実践できる
22	指導編 鉄棒指導	鉄棒の段階指導と補助法を理解、実践してみる
23	New Sports①（考案）	「誰でも、いつからでも、楽しく」をテーマにNew Sportsを考案する
24	New Sports②（共有）	考案したNew Sportsを共有する
25	実技編 マット運動・跳び箱運動	自己のレベルを向上するために更に新しい技について学び実践する
26	基本運動の系統的まとめ	様々な環境で系統的に考案。運動能力を高めることについて、まとめをおこなう
27	実技テスト	実技テストを実施する。
28	New Sports まとめ	考案したNew Sports を実践。 様々な角度から子ども達の運動について学ぶ
29	マット運動・跳び箱運動/実技まとめ	子どもたちの見本となるように自己の実技レベルアップを目指す
30	総まとめ	テストの振り返りと総まとめをおこなう

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	音楽Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	音楽Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	2	60
使用教材	近大配本テキスト ピアノ教本 声楽教本 音楽（理論）		出版社	近畿大学九州短期大学通信教育部	

科目の基礎情報②

授業のねらい	音楽Ⅰの発展とし、保育現場に必要な音楽能力に関する応用力を習得する。 保育実習・教育実習対策も行う。		
到達目標	生活の歌・季節の歌など、子供の歌の弾き歌いができる。 マーチ曲が弾ける。子供の歌を知り、歌える。基礎的な楽典を理解し、読譜ができる。 実習園から渡される曲が弾ける。		
評価基準	テスト/レポート60％ 授業態度20％ 提出物20％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	音楽Ⅰ、音楽Ⅲ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	杉 智華	実務経験	○
実務内容	ヤマハ音楽教室システム講師として1歳から大学生を主にグルーブレッスンで指導（30年） 保育園にて音楽講師として指導（6年）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	楽典・季節の歌	ハ長調のコード復習・季節の歌（春の歌）歌唱
2	生活の歌④-1	さよならのうた（ハ長調）
3	生活の歌④-2	さよならのうた（ハ長調）
4	生活の歌④-3まとめ	さよならのうた（ハ長調） テストを実施する
5	楽典・季節の歌	ニ長調のコード復習・季節の歌（夏の歌）歌唱
6	生活の歌⑤-1	おはようのうた（ニ長調）
7	生活の歌⑤-2	おはようのうた（ニ長調）

8	生活の歌⑤－3まとめ	おはようのうた（ニ長調） テストを実施する
9	楽典・季節の歌	ヘ長調のコード復習・季節の歌（秋の歌）歌唱
10	生活の歌⑥－1	おかたづけ（ヘ長調）
11	生活の歌⑥－2	おかたづけ（ヘ長調）
12	生活の歌⑥－3まとめ	おかたづけ（ヘ長調） テストを実施する
13	実習対策①	保育園・幼稚園実習に向けた対策を行う
14	実習対策②	保育園・幼稚園実習に向けた対策を行う
15	前期総まとめ	各自の技術の確認と後期の課題提示
16	マーチ①	ハ長調 むすんでひらいて／いとまき／うさぎとかめ
17	楽典・季節の歌	ト長調のコード復習・季節の歌（冬の歌）歌唱
18	マーチ②	ト長調 ちょうちょう／ピーマーチ／きらきらぼし
19	マーチ③	ヘ長調 ジングルベル
20	マーチ④	ニ長調 ミッキーマウスマーチ／メリーさんのひつじ（4つの調）
21	マーチ⑤まとめ	テストを実施する
22	季節の歌④－1	虫の声（ハ長調）
23	季節の歌④－2	虫の声（ハ長調）
24	季節の歌④－3まとめ	虫の声（ハ長調） テストを実施する
25	季節の歌⑤－1	豆まき（ニ長調）
26	季節の歌⑤－2	豆まき（ニ長調）
27	季節の歌⑤－3まとめ	豆まき（ニ長調） テストを実施する
28	実習対策①	保育園・幼稚園実習に向けた対策を行う
29	実習対策②	保育園・幼稚園実習に向けた対策を行う
30	後期総まとめ	各自の技術の確認と次年度の課題提示

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	実習演習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	実習演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	4	60
使用教材	実習日誌の書き方、保育指導案大百科事典 幼稚園・保育所実習ハンドブック		出版社	一藝社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	実習日誌、保育指導案の書き方を理解し作成する。 保育教材を製作し、それに伴う指導案を作成する。		
到達目標	前期：保育用語を理解し、実習日誌を作成することが出来る。 後期：実習活動内容を基に、指導案を作成する事が出来る。		
評価基準	授業態度：30％ 提出物：70％（指導案・製作物等）		
認定条件	出席が総時間の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭二種免許		
関連科目	実習演習Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	櫻井 理子	実務経験	○
実務内容	幼児教育・保育現場にて勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 手遊びの教育的意義	授業の目的と意義、授業の進め方、諸注意 等 手遊びの意義について改めて理解する。
2	活動の導入・まとめとは	子どもや場面に合わせた手遊びが実践できるようになる。 活動の導入・まとめについて理解する。
3	導入で使う教材の作成 製作物を使った保育①	導入で活用できる保育教材を製作する。
4		
5	制作物を使った保育②	実習で活用できる保育教材を製作する。
6		
7		

8	指導案作成	制作したものを指導案に作成する。
9	製作物を使った保育の実践	指導案に沿って発表を行う。
10	実習の振り返り	実習を振り返り、課題を整理する。
11	絵本・紙芝居の読み聞かせ	1年生の授業で習ったものを基に、絵本・紙芝居の種類や絵本・紙芝居の読み聞かせ技法を学ぶ。 グループで絵本の読み聞かせを行う。
12	幼児体育、リズム遊び等スポーツを取り入れた保育	実習で活用できる保育教材を製作する。
13		
14	幼児体育、リズム遊び等スポーツを取り入れた指導案の作成	制作したものを指導案に作成する。
15	幼児体育、リズム遊び等スポーツを取り入れた保育の実践	指導案に沿って発表を行う。
16	製作やリズム遊び、運動遊びを使った保育	実習で活用できる保育教材を製作する。
17		
18		
19	指導案作成	制作したものを指導案に作成する。
20	製作物を使った保育の実践	グループ内で実践する。
21	実習の振り返り	実習を振り返り、課題を整理する。
22	行事（お誕生日会） 指導案作成	実習（誕生日会）で活用できる保育教材や指導案を作成する。
23		
24		
25		
26	製作物を使った保育の実践	グループ内で実践する。
27	牛乳パック人形を使った保育	実習で活用できる保育教材を製作する。 指導案作成
28		
29		
30	保育の実践	グループごとに全員の前で実践する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	キャリア教育Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリア教育Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	なし			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	本格化する実習と就職に向けて、自分を知り、なりたい自分を明確にする。 また、実習並びに就職活動に向けて準備をする。		
到達目標	本格化する実習において、分野・業界を理解する。 自分自身の事を話せる（伝えられる）ようになる。 就職活動に向けて、活用できるツールを知る。		
評価基準	授業態度：20％ 提出物・小テスト：50％ プレゼン：30％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	なし		
関連科目	キャリア教育Ⅰ・Ⅲ、保育実習Ⅰ・Ⅱ、教育実習		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	小山 公彦	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	3年間のスケジュールを確認したうえでキャリア教育の実施内容説明し、実習並びに就職活動に向け、今後自分が何をするのかを知る。実習や自己分析を通してなりたい自分を明確にする
2	実習調査書回収と実習オリエンテーションに向けて	1年次最後の授業で記入した実習調査書を回収すること、事前オリエンテーションに向けてのスケジュールややることを明確にする
3	実習事後キャリア指導①	実習に向けての自分が実習後どうなっていたいか目標設定をする
4	実習事後キャリア指導②	企業訪問時や実習等におけるお礼状の書き方、書類送付時に必要な封筒の書き方や送付状の書き方を知る
5	実習事後キャリア指導③	対外部とのやり取りの注意点を学ぶ。アルバイト・実習・就職で必要になるため、実際にペアで練習を行い重要なポイントを確認
6	実習事前指導①	オリエンテーション報告シート作成・回収
7	実習事前指導②	実習報告シート作成・回収

8	分野/業種理解	分野・業界を理解する
9	企業分析①・業界研究	業界・企業研究の仕方を知り、企業研究をする
10	企業分析②・求人票の見方	過年度の到着求人を用いて求人票に記載されている項目を知る
11	企業分析③・求人票を知る	過年度の到着求人と求人票内容について知る
12	企業分析④ 発表準備	業界・企業研究をしたものや求人票を用いて企業研究に向けてを発表の準備をする
13	企業分析③ 発表	業界・企業研究をしたものを発表する
14	企業分析④ 発表振り返り	業界・企業研究をしたものに対する振り返りと現時点での就職ヒアリング
15	前期の振り返り	前期の振り返り
16	自己分析①	自分史を作成する
17	自己分析②	自分史を作成する
18	自己PR①	自己PRを作成する
19	自己PR②	自己PRを作成し完成する
20	履歴書の書き方①	履歴書の重要性を知る、書き方を学ぶ
21	履歴書の書き方②	履歴書の書き方を学ぶ
22	履歴書の書き方③	履歴書の書き方を学ぶ
23	面接の対策① 自己PRの仕方、WEB面接の仕方	面接に向けて自己PRとWEB面接の仕方を知る
24	面接の対策② 自己PRを練習する	面接に向けて練習をする
25	面接の対策③ 実践をする	面接に向けて実践をする
26	WEB媒体の紹介と活用方法について①	就職活動に活用できるサイトの紹介と、WEB説明会などで使用するZOOMなどについての説明をする
27	WEB媒体の紹介と活用方法について②	ビジネスメール使用方法とメールやLINEの送り方を学ぶ
28	実習・就職活動に向けて①	社会人基礎力を振り返り、就職につながる次年度の実習や就職活動に向けて自分自身に足りない力や更に伸ばしたい力を知る
29	実習・就職活動に向けて②	3年次実習に向けての調査書記入を行う
30	1年間の振り返り	就職実習（自主実習）事前動機づけ、春休みの過ごし方を確認する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育原理		
必修選択	選択	(学則表記)	保育原理		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	近大配本テキスト 保育原理		出版社	近畿大学九州短期大学通信教育部	

科目の基礎情報②

授業のねらい	現代に至るまでの保育の思想や制度の発達。乳幼児の特性など保育の全体を知る。社会の変化に伴い、保育事業も変化していることなど時事に目に向けて自分なりの保育観をもつことができる。		
到達目標	保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見識をもつことができる。		
評価基準	テスト/レポート60％ 授業態度20％ 提出物20％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭二種免許		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	木戸 フサ子	実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭・保育園勤務（10年） 児童発達支援放課後等デイサービス勤務（2年）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 保育とは	オリエンテーション 保育とは
2	乳幼児の特質と保育の意義	保育とは何か＝保育の理念 養護と教育
3	乳幼児期の発達の特質（1）	乳幼児期の発達の特質（1）
4	乳幼児期の発達の特質（2）	乳幼児期の発達の特質（2）
5	保育思想と児童観の変遷	保育思想と児童観の変遷
6	現代の児童観と出生率・児童虐待	現代の児童観と出生率・児童虐待
7	児童虐待に関するビデオ	児童虐待に関するビデオを視聴する

8	まとめ	まとめ
9	近代保育施設・制度の創設	近代保育施設・制度の創設
10	各国の保育	各国の保育を知る
11	各国の保育	各国の保育を知る＝調べ学習発表
12	わが国における幼稚園・保育所の成立と変遷①	明治から昭和の戦前までの日本の幼児教育について知る
13	わが国における幼稚園・保育所の成立と変遷②	明治から昭和の戦前までの日本の幼児教育について知る
14	保育の内容の変遷	保育の内容の変遷（主に明治、大正、昭和と時代を経ての変遷を学ぶ）
15	今日の保育内容	今日の保育内容（現在行われている保育内容についてを学ぶ）
16	保育の方法形態	時代の流れの中でどのような保育形態が現在行われているかを知る
17	保育方法の基本原則	保育所保育指針、幼稚園教育要領に記載されている保育の基本原則を確認する
18	遊びの意義	子どもの遊びの発達について確認し、遊びを通じての子どもの成長を学ぶ
19	「遊び」に関するビデオ	「遊び」に関するビデオを視聴する
20	まとめ	まとめ
21	保育計画と指導計画①	保育計画とは、指導計画とは何かを知る
22	保育計画と指導計画②	保育計画と指導計画の実際を知る
23	3歳未満児の保育計画と実際	3歳未満児の保育計画と実際
24	3歳以上児の保育計画と実際	3歳以上児の保育計画と実際
25	個々の幼児への理解と援助	個々の幼児への理解と援助（事例検討）
26	保育の評価	なぜ保育の評価が必要なのかを学ぶ
27	保育所での健康・安全上の留意点	安全教育の考え方を学ぶ
28	幼稚園と保育所の今後	保育園、幼稚園の今後の役割を学ぶ
29	保育の多様化	子育て不安や地域の子育て支援について学ぶ
30	後期まとめ	1年間の総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子ども家庭福祉		
必修選択	選択	(学則表記)	子ども家庭福祉		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	子ども家庭福祉 ー子どもと家庭を支援するー		出版社	(株) ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どもの福祉を図る制度の意義、体系を理解する。 現代社会や環境の変化が子どもに与える影響を学び、今後の課題を考察する。		
到達目標	保育士に求められる人間性と資質を理解し、相談援助の方法を身につける。		
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	藤嶋 孝信	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 児童福祉とは何か	オリエンテーション 児童福祉とは何か
2	児童福祉と少子高齢化社会	児童福祉と少子高齢化社会
3	児童の生活環境の変化①	児童の生活環境の変化①
4	児童の生活環境の変化② ※ケースディスカッション	児童の生活環境の変化②
5	児童の生活環境の変化③ ※ケースディスカッション	児童の生活環境の変化③
6	児童福祉の歴史	児童福祉の歴史
7	児童福祉の歴史	児童福祉の歴史

8	児童福祉制度の体系と運用過程① 法体系	児童福祉制度の体系と運用過程①法体系
9	児童福祉制度の体系と運用過程② 児童福祉法	児童福祉制度の体系と運用過程②児童福祉法
10	児童福祉制度の体系と運用過程③ 児童福祉の機関	児童福祉制度の体系と運用過程③児童福祉の機関
11	要援護児童の現状と児童福祉施設① 要養護児童	要援護児童の現状と児童福祉施設①要養護児童
12	要援護児童の現状と児童福祉施設① 要養護児童	要援護児童の現状と児童福祉施設②要養護児童
13	要援護児童の現状と児童福祉施設② 被虐待児	要援護児童の現状と児童福祉施設③被虐待児
14	要援護児童の現状と児童福祉施設③ ひとり親家庭	要援護児童の現状と児童福祉施設④ひとり親家庭
15	要援護児童の現状と児童福祉施設④ 非行児童	要援護児童の現状と児童福祉施設⑤非行児童
16	要援護児童の現状と児童福祉施設⑤ 障害児	要援護児童の現状と児童福祉施設⑥障害児
17	要援護児童の現状と児童福祉施設⑥ 保育	要援護児童の現状と児童福祉施設⑦保育
18	要援護児童の現状と児童福祉施設⑦ 家庭支援・その他	要援護児童の現状と児童福祉施設⑧家庭支援・その他
19	ケースディスカッション①	ケースディスカッション①
20	ケースディスカッション②	ケースディスカッション②
21	子どもの権利に関する条約・規定	子どもの権利に関する条約・規定
22	児童福祉サービスの今後の課題①	児童福祉サービスの今後の課題①
23	児童福祉サービスの今後の課題② (エンゼルプラン)	児童福祉サービスの今後の課題② (エンゼルプラン)
24	児童福祉の推進に 問われる課題	児童福祉の推進に問われる課題
25	児童福祉専門職とその現状	児童福祉専門職とその現状
26	児童福祉専門職の専門性	児童福祉専門職の専門性
27	児童福祉専門職の専門性	児童福祉専門職の専門性
28	ケースディスカッション③	ケースディスカッション③
29	ケースディスカッション④	ケースディスカッション④
30	年間まとめ	年間まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	幼児への特別な支援		
必修選択	選択	(学則表記)	幼児への特別な支援		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	よくわかる障害児保育 第2版		出版社	(株) ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	特別支援教育に関する理念、制度の仕組みを理解する。		
到達目標	特別支援を必要とする幼児への支援の方法について例示することができる。		
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20%（出席含） 提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	木戸 フサ子	実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭・保育園勤務（10年） 児童発達支援放課後等デイサービス勤務（2年）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション Ⅰ. 障害児保育とは何か	保育現場にいる障害のある子ども、障害のとらえ方と変化
2	Ⅰ. 障害児保育とは何か	乳幼児期における障害特性
3		障がいのとらえ方と理論の変化
4		幼児期の障害のある子どもの抱える「困り感」
5	Ⅱ. 障害児保育の仕組み	障害児保育のあゆみ 障害児保育の制度と形態
6		障害児保育に関する専門性
7		障害児とライフコース 乳幼児健康診査と早期発見 6 就学時の健康診断と就学相談

8	Ⅲ. 知的障害の特徴と保育での支援	知的障害のとりえ方 2 知的障害の認知の特徴
9		知的障害児の特徴を踏まえた支援 4 ダウン症児の特徴と支援のポイント
10		基本的生活習慣の確立 保育現場における支援 7 個別配慮や小集団を利用した発達支援
11	Ⅳ. 自閉症スペクトラム障害の特徴と保育での支援	1 自閉症スペクトラム障害のとりえ方 2 自閉症スペクトラム障害児の認知の特徴
12		3 自閉症スペクトラム障害児の社会性や行動の特徴 4 自閉症スペクトラム障害児と二次障害
13		自閉症スペクトラム障害児の特徴を踏まえた支援のポイント 6 保育現場における支援
14		7 個別配慮や小集団を利用した保育
15	前期まとめ	実習報告と気づき
16	Ⅴ. 注意欠如・多動性障害の特徴と保育での支援	1 注意欠如・多動性障害のとりえ方 2 注意欠如・多動性障害児の認知の特徴
17		3 注意欠如・多動性障害児の行動の特徴 4 注意欠如・多動性障害児の特徴を踏まえた支援のポイント
18		5 保育現場における支援 6 ADHDと二次障害
19	Ⅵ. 学習障害の特徴と保育での支援	1 学習障害のとりえ方 2 学習障害児の認知の特徴
20		3 学習障害児と不器用 4 学習障害児の特徴を踏まえた支援
21		5 保育現場における支援 6 保育者の理解と保育の中での個別配慮
22	Ⅶ. インクルーシブ保育とは	1 発達保障のインクルーシブ保育 2 障害児の在籍するクラスの保育計画
23		3 問題行動のとりえ方 4 保育者の気づきと保育 5 クラスメートへの対応
24	Ⅷ. 障害児のアセスメント	1 保育におけるアセスメント 2 保護者からの情報による子ども理解
25		3 行動観察における子ども理解
26		4 心理監査による子ども理解
27		9 総合的な子ども理解と支援への活用
28	後期まとめ	後期まとめ
29	年間まとめ①	年間まとめ①
30	年間まとめ②	年間まとめ②

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どもの食と栄養		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの食と栄養		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	新 保育ライブラリ 子どもの食と栄養 新版		出版社	北大路書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育者として正しい食の知識を持つことで小児の成長発達に専門家として対応できる力をつける。		
到達目標	小児の発達・発育の特性・栄養に関する基本的な知識を踏まえ、 小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食、食育の重要性を理解する。		
評価基準	テスト/レポート60％ 授業態度20％ 提出物20％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭二種免許		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	小金丸 桂子	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの健康と食生活の意義
2	栄養に関する基本的知識 ①	栄養に関する基本的知識 ①
3	栄養に関する基本的知識 ②	栄養に関する基本的知識 ②
4	栄養に関する基本的知識 ③	栄養に関する基本的知識 ③
5	栄養に関する基本的知識 ④	栄養に関する基本的知識 ④
6	栄養に関する基本的知識 ⑤	栄養に関する基本的知識 ⑤
7	食事摂取基準の意義	食事摂取基準の意義

8	消化・吸収	消化・吸収
9	子どもの発育・発達と食生活	子どもの発育・発達と食生活
10	発育・発達の評価と食生活	発育・発達の評価と食生活
11	食生活と子どもの健康	食生活と子どもの健康
12	妊娠のメカニズムと妊婦	妊娠のメカニズムと妊婦
13	妊娠のメカニズムと食生活①	妊娠のメカニズムと食生活①
14	妊娠のメカニズムと食生活②	妊娠のメカニズムと食生活②
15	母乳分泌と妊娠期・授乳期の食生活	母乳分泌と妊娠期・授乳期の食生活
16	乳児期の心身の特徴と食生活	乳児期の心身の特徴と食生活
17	離乳の意義とその実践	離乳の意義とその実践
18	幼児期の心身の特徴と食生活の関係 ①	幼児期の心身の特徴と食生活の関係 ①
19	幼児期の心身の特徴と食生活の関係 ②	幼児期の心身の特徴と食生活の関係 ②
20	幼児期の栄養上の問題	幼児期の栄養上の問題
21	学齢期・思春期の食生活 ①	学齢期・思春期の食生活 ①
22	学齢期・思春期の食生活 ②	学齢期・思春期の食生活 ②
23	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ①	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ①
24	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ②	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ②
25	障害がある子どもの食生活①	障害がある子どもの食生活①
26	障害がある子どもの食生活②	障害がある子どもの食生活②
27	児童福祉施設における食生活	児童福祉施設における食生活
28	食育の基本と内容・方法 ①	食育の基本と内容・方法 ①
29	食育の基本と内容・方法 ②	食育の基本と内容・方法 ②
30	年間まとめ	年間まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子ども家庭支援の心理学		
必修選択	選択	(学則表記)	子ども家庭支援の心理学		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	4	60
使用教材	新・基本保育シリーズ9 子ども家庭支援の心理学		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	生涯発達と初期経験の重要性を学ぶ 家族、家庭の理解や子育て家庭に関する現状と課題を学ぶ。		
到達目標	生涯発達に関する心理学の知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達過程についてを他者に説明することができる。 家族家庭の意義や機能を理解し子どもとその家族を包括的に捉える視点を持つ子育て家庭の現状と課題を理解するとともに、子どもの精神保健とその課題について述べることができる。		
評価基準	テキスト1講から6講、7講から9講、10.講から13講、14講から15講と4クルーに分けそれぞれの分野の理解度をレポート課題やテスト、グループワーク等で総合的な評価を行う。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	木戸 フサ子	実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭・保育園勤務（10年） 児童発達支援放課後等デイサービス勤務（2年）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	「子ども家庭支援の心理学」という教科について
2	第1講 乳児期の発達について	生まれてから2歳頃までの初期発達の特徴と保育者の関わりについて理解する
3		新生児期、乳児期における運動発達や社会性・言葉の発達について学びを深める
4		幼児期の基本的発達の特徴（認知、言語、社会性、自我）を理解する
5	幼児期の発達について	保育場面での事例等を通じ遊びの発達を学び、発達の道筋を理解し保育者の役割について考える

6	第3講	小学校入学以降の学童期の発達の特徴（認知、社会性、自己概念）を理解する
7	学童期の発達について	乳幼児期から学童期への移行の中で起こる発達と教育の諸問題について考える
8	第4講	青年期の身体的発達と認知発達、対人関係の変化、青年期の問題行動について学ぶ
9	青年期の発達について	問題行動のリスクの高い子どもたちの介入研究を行う
10	第5講 成人期・中年期の発達について	成人期の社会的責任や役割等を知り、配偶者、子ども、親等との関係性の変化を理解する
11	第6講 高齢期の発達について	我が国の超高齢化社会を理解し、高齢者を取り巻く社会状況や高齢者福祉や支援等を学ぶ
12	第1講から第6講のまとめ	主に人の発達について理解したことをまとめる
13	第7講 家族・家庭の意義と機能	家族形態の歴史的変化について知り、現代の家庭の機能について理解をする
14	第8講	家族のシステム論を学び、様々な家族関係を理解しジェノグラムの書き方を学ぶ
15	家族関係、親子関係の理解	親子関係のロールプレイを行うことで家族間でのコミュニケーションの大切さを学ぶ
16	第9講	保育園、幼稚園、子ども園などの子育て支援の法規を学び、保護者の気持ちを理解する
17	子育ての経験と親としての育ち	赤ちゃん誕生や、こんにちは赤ちゃん対策などの映像を通じて親の意識や心理を理解する
18	第10講	日本の少子化問題を理解し、核家族化を支える制度を理解する
19	子育てを取り巻く社会的状況	実際に行われている自治体の子育て支援の実践を調べ、日本での子育て支援の状況を理解する
20	第11講	ライフコースの概念を学び、その歴史的変換を通じて日本のライフコースの様相を知る
21	ライフコースと仕事、子育て	ライフコースの視点を生かした親理解や親支援を事例を通じて考察する
22	第12講	多様な家族関係に焦点をあて、社会的養護や福祉領域との接点を知る
23	多様な家庭とその理解	子どもを取り巻くさまざまな課題を知り、それらの具体的な支援の現状を学ぶ
24	第13講	養育者のメンタルヘルスや子どもの虐待、障がいに対するマルトリートメントと家族機能不全を知る
25	特別な配慮を要する家庭	逆境的小児体験の影響、トラウマインフォームド・ケアを学び、保育者としてのスキルを得る
26	第14講	年齢に応じた保育環境の大切さを知る
27	子どもの生活、生育環境とその影響	特殊な環境で育った子どもや、その家族のサポート方法を考察する

28	第15講 子どもの心の健康に関わる問題	子どもの心の健康について理解する
29		発達要がいについての理解を深め、他の機関との連携などを考え総合的な子どもの育ちを知る
30	教科総まとめ	1年間の総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どもの保健		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの保健		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	4	60
使用教材	新版 よくわかる子どもの保健		出版社	(株) ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どもの心身の健康について自ら考えることができる。		
到達目標	子どもの保健の意義が分かり、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題について説明できる。 子どもの心身の正常な発育及び発達段階各期の特徴を述べることができる。 子どもの保健行政について述べることができる。 子どもにおこりやすい疾病を知り、その予防と対策を述べることができる。		
評価基準	テスト/レポート：60％ 授業態度：20％ 提出物：20％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	宮本 美由紀	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	Ⅰ子どもの心身の健康と保健の意義	Ⅰ-1 健康の概念と健康指標、Ⅰ-3 小児保健を日々の子育てに役立てるために (P175 保育所保育指針「第3章・健康及び安全」参照)
2		Ⅰ-2 子どもの健康を脅かすもの Ⅰ-6 育児環境と精神保健
3		Ⅰ-4 我が国の小児保健水準 Ⅰ-5 母子保健 Ⅰ-7 母親のメンタルヘルス
4		Ⅰ-8 虐待 Ⅰ-9 子どものトラウマとその対応
5		Ⅰ-10 地域精神保健活動 Ⅰ-11 保健における養護と教育の一体性

6	Ⅱ 身体発育と保健	Ⅱ－1 発育には原則がある Ⅱ－2 乳幼児の計測の仕方 Ⅱ－3 身体発育値を評価する
7		Ⅱ－4 体重 Ⅱ－5 身長 Ⅱ－6 頭囲 Ⅱ－7 身長，体重のバランス
8		Ⅱ－8 肥満とやせ Ⅱ－9 身体発育に影響する要因
9	Ⅲ 運動機能の発達と保健	Ⅲ－1から4 新生児・乳児・幼児・学童期以降 各期の運動機能の発達
10	Ⅳ 生理機能の発達と保健	Ⅳ－1 自律神経 Ⅳ－2 体温 Ⅳ－3 水分代謝と発熱
11		Ⅳ－4 循環 Ⅳ－5 呼吸・心拍・血圧 Ⅳ－6 消化吸収 Ⅳ－7 排泄
12		Ⅳ－8 睡眠 Ⅳ－9 感覚器官 Ⅳ－10 免疫
13	Ⅴ 精神機能の発達と保健	Ⅴ－1 子どもの心の育ち Ⅴ－2 言語の発達 Ⅴ－3 社会性の発達
14		Ⅴ－4 情緒の発達 Ⅴ－5 発達に影響する要因
15	Ⅵ 心身の健康状態とその把握	Ⅵ－1 健康状態の観察のポイント Ⅵ－2 頭・頸部
16		Ⅵ－3 胸・腹部 Ⅵ－4 四肢・皮膚
17		Ⅵ－5 子どもの心身の健康 Ⅵ－6 心身症 Ⅵ－7 生活習慣や行動上の問題
18		Ⅵ－8 発達を評価する Ⅵ－9 乳幼児健康診査 Ⅵ－10 保護者との情報共有

19	Ⅶ子どもの疾病の予防及び適切な対応	Ⅶ－1 子どもの疾病の特徴 Ⅶ－2 重要な感染症 P116
20		Ⅶ－2 重要な感染症 P116～119
21		
22		Ⅶ－14 予防接種（P177 巻末資料② 予防接種のスケジュールも参照）
23		Ⅶ－3 呼吸器疾患 Ⅶ－4 消化器疾患 Ⅶ－5 循環器疾患
24		
25		Ⅶ－6 泌尿，生殖器疾患 Ⅶ－7 中枢神経系疾患
26		Ⅶ－8 内分泌，代謝疾患 Ⅶ－9 血液・腫瘍性疾患
27		Ⅶ－10 アレルギー疾患 Ⅶ－11 整形外科疾患
28		Ⅶ－12 その他の疾患 Ⅶ－13 新生児マス・スクリーニング検査
29		Ⅶ－15 疾病異常と支援体制 Ⅶ－16 他職種間の連携・協働
30	年間総復習	年間総復習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	教育相談		
必修選択	選択	(学則表記)	教育相談		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	教育相談			出版社	近畿大学九州短期大学

科目の基礎情報②

授業のねらい	子ども・保護者の抱える様々な困難を支えるため、教育相談の理論や方法、基礎的な知識や技術を身につける。また、保育者としての支援の在り方や心得を学ぶ。				
到達目標	発達や幼児理解について学び、カウンセリングマインドを活かして子どもや保護者と関わる姿勢を習得する。保育に活かす教育相談の理論や具体的な支援の方法を習得する。子どもや保護者の抱える問題を多角的に捉える視点を習得する。傾聴や共感、受容の姿勢を習得する。				
評価基準	テスト/レポート60% 授業態度40%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状				
関連科目	教育原理・教育課程総論・幼児と人間関係・幼児の心理学・発達心理学 等				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	宮崎 美記			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	ガイダンス、本講義の内容
2	第1章幼児理解の基礎	幼児理解の基礎（教科書p1～8）
3	第2章幼児理解に関する心理学理論① 第1節～第3節（1）	幼児理解に関する心理学理論①（教科書p9～14）
4	第2章幼児理解に関する心理学理論② 第3節（2）～（3）	幼児理解に関する心理学理論②（教科書p14～18）
5	第3章幼児理解に必要な教師の態度① 1	幼児理解に必要な教師の態度①（教科書p19～22）
6	第3章幼児理解に必要な教師の態度② 2～3	幼児理解に必要な教師の態度②（教科書p22～27）
7	第4章観察を中心とした幼児理解の方法論	観察を中心とした幼児理解の方法論（教科書p28～35）

8	これまでのまとめ①	これまでのまとめ①
9	第5章集団の中で育つ幼児の心① 第1節	集団の中で育つ幼児の心①（教科書p36～38）
10	第5章集団の中で育つ幼児の心② 第2節～第3節	集団の中で育つ幼児の心②（教科書p38～44）
11	第6章幼児期における諸問題の理解と心理的支援 第1節	幼児期における諸問題の理解と心理的支援①（教科書p45～49）
12	第6章幼児期における諸問題の理解と心理的支援 第2節～第3節	幼児期における諸問題の理解と心理的支援②（教科書p49～55）
13	第7章幼児期における保護者の心理の理解	幼児期における保護者の心理の理解（教科書p56～62）
14	第8章教育相談の必要性和教育相談における今日的課題	教育相談の必要性和教育相談における今日的課題（教科書p63～70）
15	これまでのまとめ②	これまでのまとめ②
16	第9章臨床心理学の基礎理論① 第1節～第2節	臨床心理学の基礎理論①（教科書p71～76）
17	第9章臨床心理学の基礎理論② 第3節	臨床心理学の基礎理論①（教科書p76～82）
18	第10章幼児期における問題行動：早期発見と早期対応① 第1節～第2節	幼児期における問題行動①（教科書p83～88）
19	第10章幼児期における問題行動：早期発見と早期対応② 第3節～第4節	幼児期における問題行動②（教科書p89～95）
20	これまでのまとめ③	これまでのまとめ③
21	第11章カウンセリングとカウンセリングマインド① 1～2	カウンセリングとカウンセリングマインド①（教科書p96～102）
22	第11章カウンセリングとカウンセリングマインド① 3	カウンセリングとカウンセリングマインド②（教科書p102～104）
23	第12章カウンセリングの技法（傾聴訓練：応答訓練）① 第1節～第2節	カウンセリングの技法（傾聴訓練：応答訓練）①（教科書p105～108）
24	第12章カウンセリングの技法（傾聴訓練：応答訓練）② 第3節	カウンセリングの技法（傾聴訓練：応答訓練）②（教科書p108～114）
25	第13章教育相談の実際（事例をもとに考える）	教育相談の実際（教科書p115～123）
26	これまでのまとめ④	これまでのまとめ④
27	第14章様々な課題を抱える家庭への支援① 第1節～第2節	様々な課題を抱える家庭への支援①（教科書p124～130）
28	第14章様々な課題を抱える家庭への支援② 第3節	様々な課題を抱える家庭への支援②（教科書p130～134）
29	第15章教育相談を進めるための組織的な整備と多職種との連携	教育相談を進めるための組織的な整備と多職種との連携（教科書p135～143）
30	これまでのまとめ⑤	全体のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子ども家庭支援論		
必修選択	選択	(学則表記)	子ども家庭支援論		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	実践で役立つ子ども家庭支援論		出版社	(株) ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	進む核家族化や地域の希薄化により、子育て支援が得にくい社会状況化で、子育てへの不安や負担が増加している。そんな子育て家族の支援を充実させる観点から、子育て支援に必要な知識の基礎理解について学ぶ。		
到達目標	子ども、その家庭の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育者としての基本姿勢や支援内容、それを実践するための方法、技術について理解をする。 また、家庭支援のみならず、社会的養護や保護者支援、地域支援に応用できるための基本的な理論と実践方法を学び、就職先で保護者の支援に対応できる力を身につける。		
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度20% 提出物20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目はオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。		
担当教員	橋本 理絵	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス 家庭支援論を学ぶ意義	ガイダンス・本講義の内容について説明を受ける。
2	家族形態の変化と子育て支援の必要性	子育て家庭をとりまく社会状況を理解する。
3	子育て家庭の支援ニーズの実際	どのような場合に子育て支援のニーズがあるのかを理解する。
4	子ども家庭支援の目的	保育士等が行う子ども家庭支援の目的について理解する。
5	子ども家庭支援の機能	子ども家庭支援の概要について理解
6	保育の専門性を活かした子ども家庭支援に向けて	保育士・保育所の特徴について、多職種・他機関との比較から考える。

7	養護の視点・教育の視点から	「養護」の視点から、子育て支援は子どもの心身を守る意義を学ぶ。「教育」の視点から、保護者の子ども理解や関わりを支えるシステムを学ぶ。
8	子どもの育ちを共有する喜び	子どもの育ちの喜びを共有することがなぜ必要なのかを学ぶ。
9	子どもの育ちのための共有	子どもの育ちを共有することの意義を子どもの育ちの面から考える。
10	保護者の養育能力向上につながる支援	現代の子育て家庭をとりまく社会状況を理解する。
11	地域に開かれた子育て支援	地域の子育て家庭を支援するための保育所の役割の実際について理解する。
12	保育士に家庭支援が求められる背景	家庭支援という枠組みにおいて、保育士にはどのような態度が求められているかを理解する。
13	保育士（者）に求められる基本的態度	なぜ保育士に家庭支援が求められるのか、背景を知る。
14	家族や本人が抱える課題に対応する	様々な家庭の形態や、家庭が抱える様々な問題について幅広く全体像を理解する。
15	ここまでのまとめ	レポート/試験
16	家族をとりまく現実的問題	それぞれの家庭の状況に応じた支援について学ぶ。
17	求められる連携の必要性	様々な地域資源を見つけ、子ども家庭庁について知る。
18	関係機関の種類と社会資源の特徴	子どもを真ん中にして、つながる施設について理解する。
19	子育て家庭の福祉の向上を図るための様々な社会資源	社会資源の種類と特徴を理解する。
20	多様化する家族関係・相談体制	相談体制の在り方を理解する。
21	子育て施策の背景	日本の子ども家庭支援施策の背景を理解する。
22	こども施策の展開	今の子どもの施策の展開を理解する。
23	子ども家庭支援の内容	子ども家庭支援の内容について、支援者である保育者と、当事者である保護者の問題意識の差に着目する。
24	子ども家庭支援の対象	子どもの事情から対象とすることと、保護者の事情から対象とすること。
25	保育所等で求められる家庭支援	保育所等で保育士が行う子ども家庭支援の実際について学ぶ。
26	保育士が行う家庭支援	保育所等で保育士が行う子ども家庭支援の留意点について学ぶ。
27	地域の子育て家庭への支援の必要性	地域の子育て家庭に対する支援の動向について理解する。
28	地域における多様な子ども家庭支援	地域子育て支援拠点事業、児童厚生施設、放課後児童健全育成事業について理解する。
29	要保護児童と保護者への支援	要保護児童と要保護児童対策地域協議会について理解する。
30	まとめ	レポート/試験

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育の心理学		
必修選択	選択	(学則表記)	保育の心理学		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	実践に活かす保育の心理学		出版社	ミネルヴァ書房（近大九州）	

科目の基礎情報②

授業のねらい	生涯発達の観点で、子どもの発達の過程における乳幼児期の初期経験の重要性を理解し、子どもの理解と見通しを持った発達援助のあり方を学び、保育の現場で役立つ発達や教育の知識を習得する。		
到達目標	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。		
評価基準	テスト/レポート60％ 授業態度20％ 提出物20％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	教育相談、教育心理学、幼児の心理学、子ども家庭支援の心理学		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	宮崎 美記	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	本講義について 評価方法など説明 「生涯発達」とは何か。発達を学ぶ意義について
2	心理学とは何か	保育の心理学を学ぶ
3	発達を支える①	発達を支えるアタッチメントを学ぶ
4	発達を支える②	ジョン・ボウルヴィのアタッチメント理論について
5	発達の理論と子ども観①	ウィニコットの発達理論について
6	発達の理論と子ども観②	子どもの世界観の理解

7	発達の要因	発達とは遺伝か環境か？発達の要因と子どもを取り巻く環境について
8	身体の発育・運動機能の発達	身体機能の発育と運動機能の発達について
9	情動の発達①	感情と自己意識の発達についてと情動調整について
10	情動の発達②	情動調整発達の支援について学ぶ。
11	社会性の発達①	社会的参照・他者との共有・他者理解
12	社会性の発達②	保育園・幼稚園での社会性について
13	認知の発達①	認知発達とは何か
14	認知の発達②	学童期以降の認知発達
15	前期まとめ	発達をとらえる視点について、前期のポイントまとめ
16	言語の発達①	言葉の機能について・赤ちゃんから学童期への言葉の発達について
17	言語の発達②	言葉を育むかわりについて
18	発達段階①	エリクソンのライフサイクル論と青年期以降の心理・発達段階について
19	発達障害と発達①	発達障害について
20	発達障害と発達②	発達障害は生涯発達する
21	養育者と発達①	マルトリートメントについて
22	養育者と発達②	虐待とトラウマ
23	学習理論と発達	心理学における学習理論
24	遊びと発達	遊びの発達理論について
25	乳幼児期の学びを支える保育	幼児期の終わりまでの学びについて
26	乳幼児の発達から学童期へ	発達の連続性と小学校への接続について
27	後期の授業の振り返り	前期、後期の授業内容を振り返る
28	まとめ①	試験問題への対策
29	まとめ②	試験問題への対策

30	保育の心理学を通して	保育の心理学を通して自身の生育歴を振り返る。
----	------------	------------------------

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	教育実習（1回目）		
必修選択	選択	（学則表記）	教育実習（1回目）		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	3	96
使用教材	教育実習日誌(1回目)		出版社	近畿大学九州短期大学通信教育部	

科目の基礎情報②

授業のねらい	教育実習は、本校授業・近大通信教育を通じて修得してきた知識や技能を、体験を通して実際の教育現場で実践することにより、幼児教育に対する理解を深める。		
到達目標	現場における観察・実習を行うとともに、学校教育活動全般にわたって教員の仕事を直接・間節に経験する。 教育実習校の教育目標・学習到達目標達成を目指すとともに自ら立てた目標の達成に向けて精進する。		
評価基準	評価基準は学外実習規定に準ずる		
認定条件	出席が10日と80時間の両条件を満たす事 成績評価が2以上の者		
関連資格	幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	なし		
備考			
担当教員	針尾 茜	実務経験	○
実務内容	幼児教育含む教育現場で7年勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	実習準備	実習場所・名札やその他指導に必要な準備
2	実習先の決定	企業側の承諾をもって決定
3	事前ガイダンス	実習活動中の留意点の確認、実習手帳の使用についての説明 企業、実習生間により事前打合せの指示
4	実習	1日の実習時間の最大は8時間（休憩時間を含めず）とし、原則22時まで

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅰ（保育所）		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習Ⅰ（保育所）		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	3	96
使用教材	保育園実習日誌		出版社	近畿大学九州短期大学通信教育部	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育実習は、学校での学びを通じて得た知識、技能、心構えを実際の保育現場で、乳幼児教育及び生活指導の学習を体験する。また、乳幼児の生活指導を中心にするが、この指導を通してこどもの発達助成を目指す。		
到達目標	保育現場での保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。 実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。 自分なりの保育観や子ども観を深め確立させる。		
評価基準	評価基準は学外実習規定に準ずる		
認定条件	出席が10日と80時間の両条件を満たす事 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士資格		
関連科目	なし		
備考			
担当教員	針尾 茜	実務経験	○
実務内容	幼児教育含む教育現場で7年勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	実習準備	実習場所・名札やその他指導に必要な準備
2	実習先の決定	企業側の承諾をもって決定
3	事前ガイダンス	実習活動中の留意点の確認、実習手帳の使用についての説明 企業、実習生間により事前打合せの指示
4	実習	1日の実習時間の最大は8時間（休憩時間を含めず）とし、原則22時まで

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	総合演習Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	総合演習Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	実習日誌の書き方 保育指導案大百科事典		出版社	一藝社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育者になる上で根幹となる幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の目指す保育を理解する。実習において、子どもの発達や環境への理解を深め、責任実習につなげる。		
到達目標	実習における、実習日誌や指導計画の重要性と、それぞれの目的と意義が理解できる。 子どもの発達や環境への理解を深め、自信をもって日誌や指導案を書けるようになる。		
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士 幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	小山 公彦	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 実習の意義・目的	授業の目的、到達目標を知る 実習の意義・目的について理解する
2	実習の事前準備と実習園の理解	実習生としての心構え 実習園の事前理解する
3	実習日誌とは	実習中の実習日誌の位置づけについて知る
4	日誌の書き方①	幼稚園の1日を理解し日誌の書き方を知る 日誌の実習の目標を立てる
5	日誌の書き方②	まとめと反省の書き方
6	危機管理①	実習における守秘義務やプライバシー保護について知る その他、実習における注意事項を考える

7	教育実習の振り返り	教育実習振り返りシートを作成し、クラス内で発表する
8	指導計画とは	指導計画とは何かを知る
9	指導計画の実際①	指導計画の作成をする
10	指導計画の実際②	指導計画の作成をする
11	実習日誌に必要な保育用語の理解	保育用語を適切に使い実習日誌を書く
12	危機管理②	アレルギーとは何かを理解し対応を学ぶ
13	エピソードの理解	観察を通して子どもを理解する
14	保育所の一日の生活を知る	保育実習に向けて保育所の1日を理解する
15	乳児の発達と理解	保育実習に向けて乳児の発達について確認する 異年齢児保育について知る

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	総合演習Ⅳ		
必修選択	選択	(学則表記)	総合演習Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	実習日誌の書き方 保育指導案大百科事典		出版社	一藝社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育所の特徴や一日の流れを理解し、保育者としての資質を育む。 保育発表会を通して、園運営での行事に対する計画を知り、行事の成り立ちを学ぶ。		
到達目標	子どもの自発的な活動である遊びを中心として、総合的に育まれている様子を理解する。 実習に向けた日誌の作成や指導計画の立案ができる。 保育発表会に主体的に取り組むことで、計画を立てて協力しながら行事の作り上げることができる。		
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士 幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	小山 公彦	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 実習園の事前理解	実習園の理解をする
2	保育所の一日の流れ 責任、部分実習の指導計画①	保育実習における一日の流れや指導計画に留意点を学ぶ 責任、部分実習の指導案を作成する
3		
4	実習振り返り	実習振り返りシートの作成をする
5	責任、部分実習の指導計画②	実際に行った責任、部分実習の指導案を改めて見直す 指導案を基に模擬保育を行う
6		
7		

8	保育発表会について①	実施目標、実施に向けての活動（役割分担、実施計画等）
9	保育発表会について②	保育発表会のねらいやスケジュール作成
10	保育発表会について③	保育発表会の題材選び（素材のねらいや伝えたいこと）
11	保育発表会について④	プログラム、告知方法を考える
12	保育発表会について⑤	大道具・小道具、衣装などの詳細を考え材料、備品を洗い出す 台本制作
13	保育発表会について⑥	大道具・小道具、衣装作成
14	保育発表会について⑦	大道具・小道具、衣装作成（スケジュールの見直し）
15	後期まとめ	総合演習のまとめ